RKU Today 2023

流通経済大学 学報

［特集］

流経大×松戸市 地域共生シンポジウム

vol.44

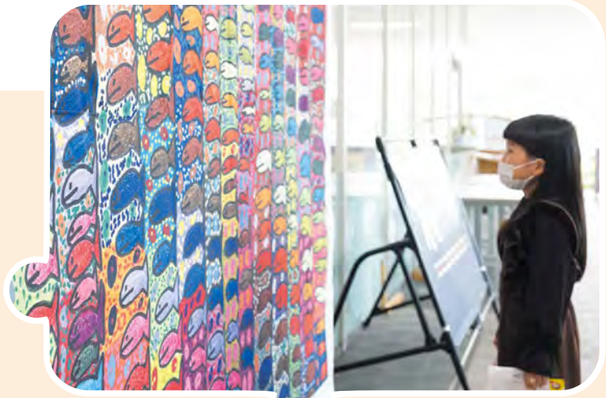
流通経済大学

流経大×松戸市 地域共生シンポジウム

みんなのために、ひとりのために、見つけよう、いまできること。ここ松戸で

2022.10.16 Shinmatsudo Campus

新松戸キャンパスを会場に、2022年10月に「地域共生シンポジウム」を開催しました。
市民一人ひとりが豊かに、支え合いながら暮らしていける共生社会の実現を目指す松戸市と、
地域社会の中で新たな役割を担っていこうという流通経済大学が連携し、初の共催イベントとなりました。
当日は約600人が来場し、国籍や年齢、立場を超えた、
様々な出会いのシーンが生まれました。



「地域に根差す大学」として

流通経済大学は2021年4月から「Reborn RKU Vision」を策定、一人ひとりの多様性を尊重し、「誰一人取り残さない」キャンパスづくりを進めています。その目標を実現するためには、キャンパスだけにとどまらず、地域社会にも積極的に働きかけていくことが大切、という考えから、2022年には、地域と一体になって考えるシンポジウムに取り組みました。松戸市とは2022年春から打ち合わせを積み重ね、今回の共催イベントが実現しました。

当日はメインとなる「シンポジウム」を取り囲むかのように、体験ワークショップやステージパフォーマンスなど様々な活動の実演がキャンパス内で展開されました。

RKU Today
Ryutsu Keizai University
Shinmatsudo
Ryugasaki

CONTENTS

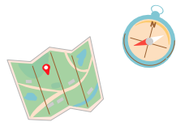
2023 vol.44

表紙イラスト：
石毛尚吾『イワシの群れ』（NPO法人 グループ彩 生活工房 所属）

03
特集 1
流経大×松戸市 地域共生シンポジウム

06
特集 2
「国際文化ツーリズム学科」&「法律学科」が始動!

08
龍崎副学長新連載
流経大を歩く
新松戸キャンパス1号館



10
学生ピックアップ
レーシングドライバー
田上蒼竜さん（経済学部2年）

12 部活サークル紹介 軽音サークル Permanent Music
13 教職員紹介 三添篤郎 教授／西田善行 准教授／竹田くるみ さん
14 柏高校ニュース 流通経済大学付属柏中学校校舎、竣工
15 NEWS & TOPICS
3年ぶり! 第57回「つくばね祭」/BS-TBSの対談番組に学生6人が出演/
「Run Run Curry Expo」開催/中原教授が「日展」で内閣総理大臣賞受賞/
吹奏楽部「ウィンターコンサート」/中澤佑二さん 龍ケ崎キャンパスで講演/
ニジェリスコイ先生 オーケストラライブ出演/
野尻理事長が「物流人間大賞」受賞/サッカー部OB守田選手 W杯出場

シンポジウム「地域共生のまちづくりin大学のあるまち松戸市」

シンポジウム登壇者

司会：**膳場貴子**
流通経済大学客員教授・TBSテレビ「報道特集」キャスター

パネリスト：**恩田忠治**
馬橋地区居場所づくり実行委員会委員長／世代を超えて地域住民が交流できる居場所を創出する松戸市の取り組み「まつどDE つながるステーション」の活動を馬橋地区で行っている。

パネリスト：**石和田二郎**
松戸市副市長／建設省、国交省、復興庁などで公務を経験し、人の暮らしを整備するための制度にも明るい。

パネリスト：**稲山敦子**
一般社団法人日本知的障害者チアリーディング協会代表理事／障がい者の母親として、知的障がい者のスポーツ参加の必要性を強く感じ、同協会を立ち上げた。

パネリスト：**龍崎 孝**
流通経済大学副学長・社会学部教授／大学の役割の一つを社会との連携と捉え、学生による「実学」の機会として大学と地域の「協働」の場を模索している。

講堂で行われたシンポジウムでは、様々な立場の登壇者が、「地域共生」に向けたそれぞれの活動や目標を共有し、活発に意見交換が行われました。

ルールづくりを行う行政の立場である松戸市の石和田副市長からは、「行政サービスを細やかに行おうとすると、どうしても小さな分断が起こりがちである」という課題があげられ、大学が地域の人たちにとって、その人の〝属性〟に関係なくつながり合える場所になり、互いの気づきを共有できる場所になれば、と期待が寄せられました。

また、松戸市馬橋地区で世代を超えた居場所づくりに取り組む恩田さんは、「高齢者があやとりや折り紙などの遊びを子どもたちに教えるイベントを行っていますが、多世代が一つの場所に集うことで、新たな価値が生まれています」と話し、恩田さんたちの活動をきっかけに、地域の防災や清掃活動などに幅広い世代が参加しているという実例が紹介されました。

一方、「誰もやらないのなら、私が協会を作ろう！」と日本知的障害者チアリーディング協会を立ち上げ、その普及活動に尽力する稲山さんは、「障がい者が集まって何かをしようとすると、皆さんにとっては思いもよらないハードルが立ちはだかります。しかしながら、流経大との出会いで、そのハードルを乗り越えて地域に出ていく機会が生まれたことは間違いありません」として、大学が果たしうる役割について言及しました。

シンポジウムの終盤に設けられた来場者の声を聞くコーナーでは、様々な意見や要望を聞くことができ、「共生社会」の輪を広げる重要な一歩となりました。

パネリストが参画する取り組み

障がい者チアプロジェクト

日本知的障害者チアリーディング協会は、流経大との出会いを経て、現在、新松戸キャンパス2号館の体育館で地域の方を対象に体験会を実施中。「スポーツをする習慣を持ちにくい知的障がいの子どもたちに、気軽に楽しくチアに触れて体を動かしてもらいたい」（稲山さん）

共有して「いまできること」を見つける

講堂のステージでは、流経大が2022年春から定期的に開催している知的障がい者のチアリーディング体験会に参加してきた子どもたちが、大学のチアリーディング部「GLITTERS（グリッターズ）」と初めてコラボし演技を披露、また、4月に創部したダンス部は、初めて学生たち自らが創作したダンスを発表しました。〝ステージと客席を一体に〟というダンス部西山監督のリードのもと、着席したまま参加できる「すわりダンス」で来場者も一緒に体を動かしました。

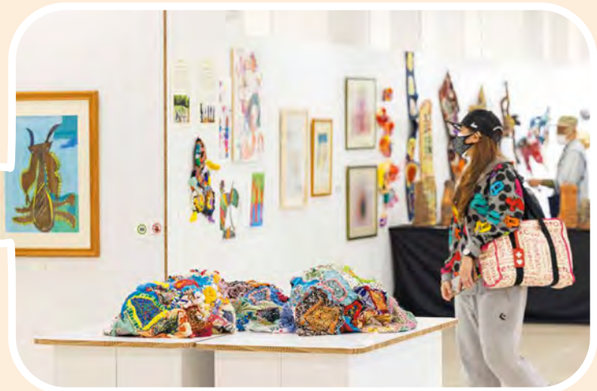
さらに、パラリンピックの種目でもある「ボッチャ」の実演も行われ、地域社会で積極的に普及活動をしているNECボッチャ部のみなさんと、本学の学生・教員が協力した体験コーナーでは、子どもから大人まで誰もが楽しめるボッチャの魅力を、多くの来場者と共有することができました。そして、流経大に留学しているアジア出身の学生たちによる「バンブーダンス」コーナーは、異文化に触れた子供たちに大人気となり歓声があがっていました。

学生のみならず市民の方にとっても、シンポジウムのサブタイトルのように、「いまできること」を見つける機会がちりばめられた一日となりました。

地域社会と〝であう〟〝つながる〟「であうアート展2022」

成田市の障がい者支援施設「生活工房」に所属するアーティストのみなさんの絵画やニードルワークなどを紹介し、展示を通して地域のみなさんと〝つながる〟場を創出する「流経大生が創る であうアート展2022」は、最終日が地域共生シンポジウムと同時開催となり、来場者は、色彩豊かで生命力あふれる作品の数々に見入っていました。

「であうアート展」は、今年、東日本大震災の被害にあった三陸沿岸を北上する形で、東北の地で様々な「であい」を導く〝旅〟に出る計画を進めています。



企画立案・龍崎副学長's eye

「地域と共に生きる大学」で幸福を生み出す

大学とは教育・研究機関であることは第一ですが、同時になぜその地にあるのか、ということも重要です。新松戸キャンパスには門も塀もありません。キャンパスそのものが地域社会に開かれた形で設計されています。この特徴を活かしていくことで、地域で唯一の、かけがえのない存在になりたいと考えました。

私はキャンパスを「コモンズ」にしたいと考えています。地域の人々誰もが自由に過ごすことのできる「共有の空間」としての大学です。そしてその「コモンズ」で生み出されるものは、心も体も良好な状態でいること、つまり「Well-Being」＝健康、幸福です。

流通経済大学は「実学」を大事にしています。一人ひとりの、さらには社会の幸福を実現するには、『思い』だけではなく小さくてもいいので、実際に『行動』することです。今回のシンポジウムが、識者の対談だけでなく、たくさんの「アクト」を展開したのは、学生そして市民の方が、そこに飛び込んで何かを感じてほしいからです。自分にできる「アクト」を見つけることこそ、本学が目指す「実学」と考えます。幸福な社会を実現するのは、一人ひとりの『思い』と『行動』です。流通経済大学はその機会をどんどん作り出していきたいと思います。

2023年
4月

国際観光学科、ビジネス　法学科がリニューアル！

「国際文化ツーリズム学科」&「法律学科」が始動します!

社会学部

国際観光学科

国際文化ツーリズム学科

Department of Intercultural Studies & Tourism

地域の魅力を掘り起こし世界へ発信する

1993年の創設以来、観光だけでなく、国際分野、地域分野、文化研究分野の充実を図ってきた国際観光学科。30年の節目を迎える2023年に「国際文化ツーリズム学科」として新たに始動します!

学科独自の英語教育を基盤に、「コミュニケーション、多様性」「地域活性化、まちづくり」「ビジネス、マーケティング」の3つの柱で、実学的、実践的な教育を行います。

学びの柱 01 コミュニケーション、多様性

グローバルな視点を養う

多様な文化の在り方や、文化間の交流・葛藤などの現実を学び、多文化共生を実現するスキルの体得を目指します。

●どんな授業？

「異文化コミュニケーション」

「文化人類学」「多文化社会論」など

学びの柱 02 地域活性化、まちづくり

地域をプロデュース

地域の産業、歴史、文化といった資源を発掘し、新たな地域の魅力を発信・プロデュースする能力を身につけます。

●どんな授業？

「地域研究論」「観光地理学」など

学びの柱 03 ビジネス、マーケティング

アイデアを生み出す学び

自然、歴史、文化といった「地域資源」をより輝かせ、ビジネスに活かすアイデア創出力を身につけます。

●どんな授業？

「観光マーケティング論」

「観光経営学」など

地域社会とつながるリアルな学び

プロジェクト学習

まちづくりの現場への参加、ブライダル業界の体験、旅行プランの作成・実施など、多様なプロジェクトを準備

ヨーロッパとつながるオンライン授業

フランス、イタリアと新松戸キャンパスをオンラインでつなぎ、ヨーロッパの“今”を授業で体感

海外留学・研修

毎年、多くの学生が中長期の留学、短期の海外研修に参加。行き先はアメリカ、イギリス、オーストラリア、韓国、台湾など

法学部

ビジネス法学科

法律学科

Department of Law

「法」の知識と論理的思考力はどんな場面でも役に立つ

法律学科は法律の知識を基礎から学ぶことで、資格を活かした法律専門職はもちろん、民間企業への就職から公務員まで、未来の選択肢を最大限に広げられる学科です。

民法や憲法などの法律科目はもちろん、「法廷傍聴」や「企業法務で働く外部講師による授業」など“法の現場”に触れる機会が多いほか、物流関係の法科目を学べることも特色。

「法」の知識に基づく論理的思考力を活かして、社会のあらゆる場面で活躍できる人材を育成します。

学びの柱 01 ビジネス法務

企業法務のエキスパートに

取引先との契約締結、顧客とのトラブル処理、社内の労働問題など諸問題に関わる法知識、法的思考力を身につけます。

●どんな授業？

「民法」「商法」「労働法」

「金融取引法」など

学びの柱 02 法律専門職

官民双方に貢献

リーガルマインドの重要性を深く理解し、行政書士、司法書士などの資格を取得して官民双方に貢献する人材を目指します。

●どんな授業？

「憲法」「民法」「刑法」「商法」

「行政法」「民事手続法」など

学びの柱 03 スポーツ法務

法学的見地でスポーツを捉える

スポーツを広くビジネスや文化として捉え、公務や地域社会、国内外の企業や教育現場で力を発揮できる人材を目指します。

●どんな授業？

「スポーツと法」「法と文化」「民法」

「商法」「労働法」「スポーツとメディア」など

資格取得に向けたサポート体制も充実

法律専門職特殊講義（行政書士、宅建士）

人気の国家資格である行政書士や宅建士の試験合格レベルの実力修得を目指す

各種課外講座（無料）

ファイナンシャル・プランニング技能検定（3級）講座、宅地建物取引士受験講座、行政書士受験講座、法学検定試験講座（web受講形式）、社会保険労務士受験講座、ビジネス実務法務検定試験講座（web受講形式）など

法律学習サークル「龍法会」「法友会」

法学部上級生が1年生などを対象に週1回、憲法や民法などの勉強会を開催。宅建士などの資格試験や公務員試験の対策、授業の予習復習のほか、卒業生との懇談会も定期的に開催

Exploring around Ryutsu Keizai University

流経大を歩く

2025年度に創立60周年を迎える流通経済大学。
2つのキャンパスを歩きながら、その「魅力」と、
あまり知られていない「ヒミツ」を探訪します。

Takashi Ryuzaki

#001
新松戸キャンパス
1号館

文：龍崎 孝

流通経済大学副学長・社会学部教授
元毎日新聞社記者、元TBSテレビ政治部長／第30回日本ジャーナリスト会議JCJ奨励賞「財界と政界～再編の胎動」（1990年度）／第30回放送文化基金賞「JNN三陸臨時支局の活動に対して」（2012年度）

地域づくりの核に。大学は「コモンズ＝共有空間」

『流通経済大学の新松戸キャンパスは、ソルボンヌ大学のようだ』

昨年暮れに、東京工業大学の名誉教授で、景観論の第一人者でもある中村良夫さんと対談する機会に恵まれた際、中村さんはこう表現した。19年前に建設された新松戸キャンパスには、門もなければ塀もない。目の前の「けやき通り」から誰でも、妨げるものなくキャンパスに入ることができる。その様は、まるでパリのソルボンヌ大学のようだ、というわけだ。

今、大学では地域社会との連携を進める様々な取り組みに挑戦している。千葉県成田市の障がい者支援施設に所属するアーティストの作品を紹介する「であうアート展」は、絵画や陶芸を通じて、学生や地域の人々が「であう」ことを目的としている。また地域の知的障がいを持つお子さんたちにチアリーディングを体験してもらう試みは、2023年から本学のチアリーディング部「GLITTERS（グリッターズ）」の姉妹チームとして、独り立ちしようとしている。2022年10月には、松戸市と「地域共生シンポジウム」を共催。そのテーマは、「みんなのために、ひとりのために、見つけよう、いまできること」。そして、海の日に実施する「海の日アートフェス」も、参加するみなさんには、単に活動の発表の場とするのではなく、地域との結びつきを〝アートを通じて具現化する場〟という自覚を求めている。

大学が教育・研究機関であることはいうまでもないが、なんのためにその地域に存立しているのかを今一度深く考え、地域社会と手を携えて、ストレスのない、幸福な社会、地域づくりの核になっていこうと考えている。その実践の主体として大学を、「コモンズ＝共有空間」と名づけてみた。門も塀もないキャンパス、それはまさに「コモンズ」そのものではないか、と思う。

20年前のキャンパス設計案に潜む「空間」の在り方

では一体、誰がこの新松戸キャンパスを設計したのだろうか。そこにはどんな「思想」を潜ませたのだろう。3枚の青写真がある。新設にあたって検討された基本設計案である。2002年に大学から建設会社に出した要望は、収容規模や体裁・風格・使いやすさを考慮することなど7項目だが、地域社会との関わりについては特に触れられていない。「学内外に学生が屯す場所を確保」という項目、「屯す（たむろす）」という表現には苦笑いするが、あえていえばこの要望事項が、空間の在り方を示唆しているかもしれない。つまり、明確な目的がある教室や事務室ではなく、何をするでもなく過ごすことのできる場所、誰がどう使っても構わない空間が必要、といっているのだろう。

このコンセプトに基づいて作られた3案を見ると、A案は正方形の校舎配置、B案は前に広場を置いた構図、そしてC案は現在のキャンパスに近いコの字型の配置となっている。手元の資料にC案決定の理由が書かれたものはないが、「けやき通り」側からの、外からの人の流れを包み込むような配置ともいえる。それは学生だけでなく、地域の人々の「参加」を促す構造、といってもいいかもしれない。2023年の今、流通経済大学が進めようとしている地域との連携、さらには共生社会の実現の核になる、という方向性を掲げる私たちにとって、20年前からその萌芽があった、という事実は心強い。

一体「流通経済大学」とは誰にとってどういう存在なのか、新松戸、龍ケ崎、そして付属高校・中学校の中に潜むその「ヒミツ」を今後探訪していきたい。

A案

B案

C案

PICK UP STUDENTS
学生ピックアップ

vol.05

経済学部2年
田上蒼竜（たがみそうりゅう）さん

2002年、茨城県つくば市生まれ。2022年、フォーミュラカーレースのスーパーFJカテゴリーにて2つの選手権で優勝。2023年よりF4カテゴリーに参戦予定。

田上蒼竜
公式WEB▶

目指すはF1の頂点。
大好きなレースに人生のすべてを捧げる

Soryu Tagami

4歳、レオンサーキットにて初めてのレーシングカート

お腹にいるときから エンジン音を聞いて育つ

テレビはカーレースかニュースしか見ない、というほどレース好きの両親のもとに生まれ、自身も幼い頃からレースの世界に魅了されてきた田上さん。3歳のときに訪れたカーレース場レオンサーキットでレーサーへの憧れを抱き、4歳で初めてカートのハンドルを握りました。5歳で初出場したレースでは、いきなり2位を獲得。そのときの記憶は今も鮮明に残っているといいます。

「カートを操りながら他の選手とバトルする面白さを初めて知った瞬間でした。ラスト1周で一気に抜いて2位になり、還ってきた瞬間、父に抱っこされて一緒に大喜びしたのを憶えています」

その後も数々のカートレースで好成績を残し、レースにのめり込んでいった田上さん。いつの日か「F1ドライバーになりたい」という夢を抱くようになりました。

フォーミュラ初参戦で ダブルタイトルを獲得

19歳からは、その夢への第一歩として、フォーミュラカーレース※の入門カテゴリーである「スーパーFJ」に参戦。2022年は、年間4シリーズあるうち「もてぎ・菅生S-FJ選手権」と「筑波・富士S-FJ選手権」の2つを制し、Wチャンピオンを獲得する快挙を成し遂げました。

「これまでたくさんのレースに出てきましたが、実は人生で初のチャンピオン。長い間、優勝できないジレンマを抱えていたのですごく嬉しかったです。二人三脚でサポートしてきてくれた両親もとても喜んでくれました」

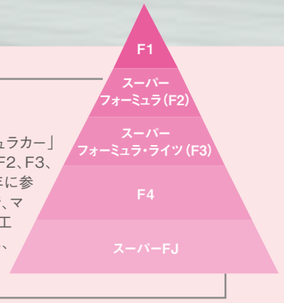
優勝の経験は田上さんにとって大きなターニングポイントに。自信がつき、気持ちに余裕をもって戦いに挑めるようになったといいます。

一生涯、レースに携わっていたい

田上さんが流経大の経済学部を選んだのは、「いずれ自分のレーシングチームを経営できるように」という、その先の目標を叶えるため。自身をレースの世界へと導いてくれたレオンサーキットで、キッズカートのサポートや裏方のアルバイトをしながら、将来のこともしっかり考えています。

「レーサーはアスリートと同じで、必ず引退の時期が来ます。引退後のキャリアを考えたとき、今度は僕が育成側に回って、レース界に貢献したいと思いました。どこまで行ってもレースが好きなんです。死ぬまでレースに関わっていたいと、心から思います」

終始、優しい表情で語る田上さんですが、言葉から伺える首尾一貫した意思の強さに、天性のレーサーともいえる人柄がにじみます。



※フォーミュラカーレースとは

車輪とドライバーが剥き出しになっている「フォーミュラカー」で行う競技。車体の種類や馬力、規則によってF1、F2、F3、F4のカテゴリーに分かれている。田上さんが2022年に参戦した「スーパーFJ」は日本独自の入門カテゴリーで、マシンが統一化され、運転技術で勝負が決まるよう工夫されている。日本ではスーパーフォーミュラがF2に、スーパーフォーミュラ・ライツがF3にあたる。

F1ドライバーの夢に 向かって、次の領域へ

2023年からはステップアップしてF4カテゴリーへの出場を予定。エンジン、ボディ、タイヤも馬力も格段に大きくなり、最高速度は230㎞／hの世界へと挑みます。

「フォーミュラの頂点であるF1ドライバーになって、ワールドチャンピオンを獲得するのが目標。世界で20席しかないF1シートを獲得するため、日々レースのことばかり考え、レースを中心にした生活を送っています」

人生のすべてを大好きなレースに捧げる田上さん。今日もF1ドライバーの夢へと邁進します。

流通経済大学 教職員紹介

Kurumi Takeda

教育学習支援センター
竹田くるみ さん

それぞれのペースで充実した学生生活を!

本学の社会学部を卒業後、事務職員として教育学習支援センターで働いています。最近はセンターも賑わいを取り戻してきましたが、ここ数年は対面での学生生活ができず、交流の場が少なかった方が多いのではないでしょうか。対面授業が再開し課題や発表も増え、勉強、就活、友人など学生生活の中でも様々な悩みが出てきたかと思います。私も発表がある授業は緊張してしまい、つい休んでしまいたくなることもありました。しかし「失敗」は悪いことではありません。やらないで後悔するより「とりあえずやってみる」ことも大事かと思います。私は不安であればそれに備えよう！ と準備に力を入れました。一人では勇気が出ない場合は先生や職員に相談してみてください。怖いと思っていた先生が実は話しやすかったなど新たな発見があるかもしれません。また、学生の本業は勉強ですが、やりたいことを追求する、それを楽しむことも大切なことだと思います。センターでは様々なイベントを実施しており、学内も学生主体のイベントが増えました。ぜひ一度参加してみてください。つい人と比較してしまいがちですが、それぞれのペースで学生生活を楽しんでほしいなと思います。

Yoshiyuki Nishida

社会学部
西田善行 准教授

方法論が授ける「メガネ」

私はメディア社会学を専門としていて、授業ではメディア研究や社会調査の基礎的な知識を教えています。メディアで映し出されているものは目に見えますが、そこで映し出され、語られているものの「意図」や、映されているものの「社会」的側面といったものは、実は目に見えません。メディア研究ではメディアコンテンツの「意図」を見抜く力を「メディアリテラシー」と呼び、社会学では「社会」を見出す力を「社会学的想像力」などと呼ぶことがありますが、どちらも大学を出てからも必要な力だと思います。メディア研究の方法や、社会調査の方法は、こうした目に見えないものについて様々なアプローチを使って見えるものにしていく、いわば見るための「メガネ」のようなものです。方法論を学ぶというのはメガネの作り方を学ぶということで、そこで曲がりなりにでもメガネをつくることができるようになれば、「意図」や「社会」をおぼろげながらも見ることができるようになります。最初は瓶の底のようなメガネしかつくることができないかもしれませんが、メガネをしっかりと研磨し、焦点を合わせることができてくれば「意図」や「社会」は少しずつ見えてきます。

Atsuro Misoe

経済学部
三添篤郎 教授

好きこそ物の上手なれ

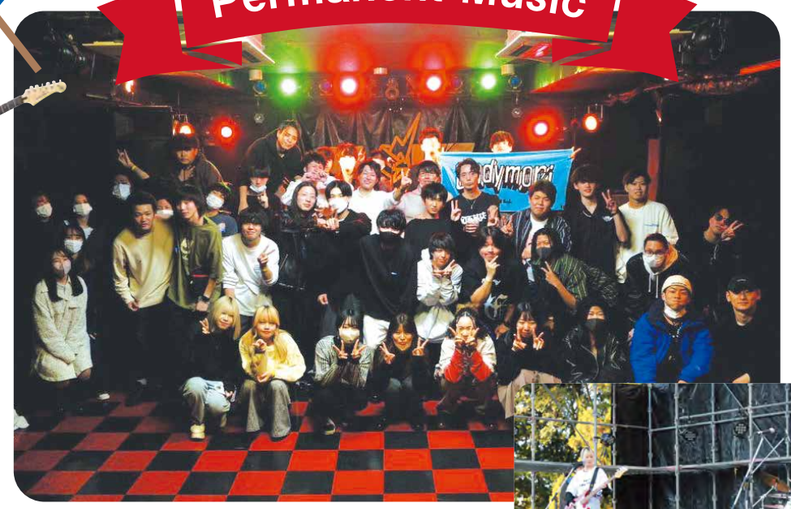
「好きこそ物の上手なれ」という慣用句があります。好きになったことは、自然と上達も早くなる。嫌々やっても大きな成長はできない。そういった意味の言葉です。私の専門はアメリカ文学で、経済学部では語学（英語）の授業を担当していますが、授業では、この教えを忘れないように心がけています。本学には、英語に苦手意識を持った学生が少なからずいます。そのような学生に、英単語の暗記を強いたり、文法を一方的に教えたりしても、有意義な学びにはつながっていきません。苦手だった英語が、授業を受けて、さらに苦手になってしまうという恐れもあります。では、どうしたらいいのでしょうか。こうした学生には、まず何よりも、英語を好きになってもらいたいと考えています。例えば、英語の歌の一節を声に出してみるだけでも、その魅力は充分味わうことができます。海外の有名人のホームページを閲覧してみるのも、いい刺激になるでしょう。こうした経験を通じて、学生は徐々に英語に親しみを感じるようになっていくのです。そして、それは間違いなく語学力を高めるための、強い原動力となっていきます。私はこの点を意識しながら、日々教壇に立っています。

部活・サークル紹介

CLUB ACTIVITIES

vol.05

Permanent Music



授業終わりの新松戸キャンパス、7階フロアにギターやベースの音が鳴り響く――。ともかく音楽が好き！ というメンバーが集まる軽音サークル「Permanent Music」。演奏するジャンルは、人気ロックバンドのコピーやアニソン、ラウド・ハードコアまで、それぞれが自由に楽しんでいます。バンドのメンバーは固定ではなく、例えば、「今度の学園祭は、クリープハイプの曲をやろう！」と意気投合したメンバーでライブの都度編成するスタイル。学年も学部も、初心者も経験者も垣根なく交流し、“つながれる”のが魅力です。

ステージに立つのは、毎年恒例の新松戸「青春祭」と龍ケ崎「つくばね祭」。そして、2022年12月には、サークルのOB・OGの発案で、現役生と卒業生による世代を越えたバンドを編成し、柏市のライブハウスで「RKU Fes」を初開催！ 会場が一つになって大いに盛り上がりました。今年3月には、龍ケ崎商店街を盛り上げるイベントにも出演予定です。

サークル情報

練習時間 ―― 水・金　18:05～20:00
練習場所 ―― 新松戸キャンパス7階フロア
所属人数 ―― 16名

ライブやイベントへの出演依頼も大歓迎!

▲ Twitter　▲インスタグラム

Twitter：@permanent_rku
Instagram：@permanentmusic_rku

初心者大歓迎！
先輩が優しくサポートします。
みんなで集まると楽しいよ！

◀最新TOPICSは流経大公式WEBで随時更新中!
各記事のQRコードからも詳細をご覧いただけます。

NEWS & TOPICS

'22 12/25 吹奏楽部「ウィンターコンサート」

毎年恒例の吹奏楽部によるクリスマスコンサートが「ウィンターコンサート」として装い新たに開催されました。ダンス部との初コラボもあり、観客の皆さんと会場が一つに。松戸市民の方から「最高の一日を過ごせました」と嬉しいお葉書をいただきました。

'22 12/1 中澤佑二さん 龍ケ崎キャンパスで講演

元サッカー日本代表の中澤佑二さんを招いて「次世代の指導者を目指す若者たちへ」をテーマに、NHK水戸放送局と大学セミナーを共催、スポーツ健康科学部の学生約270人が参加しました。

'22 12/2 ニジェリスコイ先生 オーケストラライブ出演

流経大でアート・ディレクターを務めるニジェリスコイ先生が、オペラ、ミュージカルなど様々なジャンルのパフォーマンスとオーケストラが饗宴する「オーケストラ・アーツ・ライブ2022」に出演。一流アーティストたちとコラボし、演出も担当しました。

'22 12/14 野尻理事長が「物流人間大賞」受賞

日通学園の野尻俊明理事長が、第8回「物流人間大賞」を受賞しました。この賞は広く物流分野で高い功績を示した人物を顕彰するものです。

'22 11~12月 サッカー部OB守田選手 W杯出場

2017年度に法学部を卒業した守田英正選手が、2022 FIFAワールドカップカタール大会の日本代表メンバーに選出され、決勝トーナメントまで戦い抜きました。流経大卒業生がW杯代表選手となるのは初めてです。

'22 11/6 3年ぶり! 第57回「つくばね祭」

龍ケ崎キャンパスのつくばね祭を対面形式では3年ぶりに開催。ライブやダンス、サッカー体験教室など様々なイベントが催され、多くの方にご来場いただきました。フィナーレでは、400発の花火が龍ケ崎の夜空を彩りました。

'22 11/6 BS-TBSの対談番組に学生6人が出演

龍崎副学長がMCを務めるBS-TBS「Style2030賢者が映す未来」の収録が新松戸キャンパスで行われ、11月6日に放送されました。各学部から6人の学生が参加し、ゲストの慶應義塾大学・若新雄純准教授と若者の“働く”についてディスカッション。若新さんが語る「運を楽しむ」生き方に学生も大きく頷いていました。

'22 12/4 「Run Run Curry Expo」開催

陸上競技部・駅伝チームと一緒に走って松戸市名産を使ったカレーを食べよう、というイベント「Run Run Curry Expo」を松戸運動公園で開催。㈱博報堂DYSMの指導のもと流経大生たちがプロデュース、小学生から一般の方まで151人に参加いただき大盛況となりました。

'22 11/4 中原教授が「日展」で内閣総理大臣賞受賞

日本最大級の総合美術展覧会「日展」で、経済学部の中原篤徳教授の彫刻作品「無垢の予兆」が、内閣総理大臣賞を受賞しました。

★流経大付属柏高校ニュース★

RKU KASHIWA HIGH SCHOOL NEWS

流通経済大学付属柏中学校校舎、竣工

文：柴田一浩 校長

いよいよ、付属柏中学校の開校が4月にせまり、昨年12月末には、野尻理事長、上野学長をはじめ関係の皆様出席のもと、中学校棟と図書・メディア棟の竣工式を挙行しました。高校との共用施設である図書・メディア棟と多目的ホールのある中学校2号館は、1月から利用を開始しています。

図書・メディア棟は、正門から入るとすぐにあるガラス張りの開放感あふれる3階建ての建物で、2階には7万冊の蔵書と数多くの自習スペースを有する図書・メディアセンター、3階には、海外の中高生とオンラインで交流できるバーチャル留学ルームなどがあります。また、中学校2号館には、学年集会に加えてダンスや卓球など保健体育の授業ができる多目的ホールや音楽室を設置しました。

付属柏中学校は各学年定員140名（35人×4クラス）で計420名ですが、令和5年度は1年生のみを迎えてスタートします。中学も高校も、生徒一人ひとりと向き合い、新たな施設を有効に活用しながら、「未来を創造する叡智を養い、自己実現を図ることでグローバルリーダーを育成する」ために、教職員一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご支援をお願い申し上げます。

詳しくは、流通経済大学付属柏高校の公式WEBに掲載しています。
https://www.ryukei.ed.jp/

竣工式の様子

中学校校舎

図書・メディア棟

2022年度2学期「全国大会等出場」部活動紹介

吹奏楽部

府中の森芸術劇場で10月9日に開催された「第22回東日本学校吹奏楽大会」において1位となり、金賞を受賞しました。

放送部

千葉県教育会館で11月19、20日に開催された「第35回千葉県高等学校文化連盟放送コンテスト」のオーディオメッセージ部門で優秀賞を受賞しました。

2023年8月に開催される「全国高等学校総合文化祭」に推薦されました!

男子ラグビー部

柏の葉公園総合競技場で11月13日に開催された「第102回全国高等学校ラグビーフットボール大会千葉県大会」で優勝し、28年連続30回目の全国大会への出場を決めました。

科学部

幕張メッセで開催された「日本分子生物学会年会」（11月30日～12月2日）で研究成果を発表しました。

食＝SHOKUプロジェクト
RKU人をつくる食
PRESENTS

・日本選手権最多優勝11回
トライアスロンで五輪4大会連続出場

田山寛豪（ひろかつ）の「食生活」

（スポーツ健康科学部 准教授）

現役時代は何を食べるかよりも、いつ食べるかを意識していました。一般的に栄養学ではトレーニング前に何かを食べて血糖値を上げると良いとされていますが、この理論は自分の競技パフォーマンスには一部そぐわないところがありました。あえて何も食べずに練習して筋グリコーゲン（筋肉収縮のためのエネルギー源）の枯渇状態を作り、トレーニング後に糖質を補給する。そうすることで筋グリコーゲンがしっかり貯まることを実感できました。

オリンピックを目指すようになってからは、野菜や肉・魚などをバランスよく食べ、高カロリーで栄養がない嗜好品は自然に摂らなくなりました。サプリメントやプロテインにも一切頼らず、腸内環境を整える食事を普段から心がけていました。

競技によっては体重の変化が大きく影響しますが、過度なダイエットは良くありません。極度の制限をせずに、補給したい分食べて、食べた分は活動で消費すればいい。「食」を楽しみつつ自身の競技に合ったコントロールをすることが大切です。

プロジェクト担当の
先生から
ひとこと

プロテインやサプリメントに頼らず、普段の食生活の中で必要な栄養をバランスよく摂るという姿勢は、2010年、2017年に国際オリンピック委員会が発表したスポーツ栄養学に関する声明とも合致しています。こうした声明が出される前から実行し、トップアスリートとして活躍してきた田山先生の強さは素晴らしく、流経大出身者であることを誇らしく思います。現在、後進の育成指導に従事されている先生は、真の意味で「強い選手」を育む指導者であると感じました。

※本記事は、食＝SHOKUプロジェクトの一環として、スポーツ健康科学部の学生たちが田山寛豪先生に行ったインタビューのレポートを編集したものです。

食＝SHOKU
プロジェクト
公式WEB

田山寛豪先生
インタビュー
レポート

編集後記

●先日のことである。授業を終えて、新松戸キャンパスから出ようとしたとき、元気のいい声が耳に飛び込んできた。顔をあげると、けやき通りに面した本学の屋外階段で、地元の子どもたちが楽しそうに遊んでいた。近くでは、保護者の方々がリラックスした様子で談笑している。その光景を見て、思わず胸が熱くなった。

●本誌でも紹介したとおり、流経大はこれまで、地域の方々との交流をはかるイベントを定期的に開催してきた。昨秋には、「地域共生シンポジウム」を松戸市と共催し、学内外から多くの方にお越しいただいた。近隣にお住まいの方々と直接お話しすることができ、学生も教職員も充実した一日を過ごすことができた。

●こうしたイベントを通じて、本学は今、より地域に開かれた大学へと生まれ変わろうとしている。だからこそ、キャンパスに子どもたちの姿を発見したとき、心の底から嬉しくなった。流経大が地域の方に利用される場所になってきたことを、素直に喜びたい。ぜひ読者の皆さんにも、気軽に足を運んでいただければ幸いである。

RKU 流通経済大学

学報 RKU Today vol.44　2023年3月発行
編集・発行／学校法人日通学園 流通経済大学 広報室
千葉県松戸市新松戸3-2-1　〒270-8555　khs@rku.ac.jp

Japan University Accreditation Association
UNIVERSITY ACCREDITED
2022.4～2029.3